学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	健康相談の理論と方法				
担 当 者	伊東愛				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.6	4.6	4.6	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>患者さんや利用者、住民からの相談に対応できるよう、特に個別支援に時間を割きました。事例に基づくグループワークで、家族や多職種からの相談にも対応すること、そして協力を得ることの大事さについて学ぶことができました。早めに資料配付・予告していましたが、グループワークの事前課題である事例を読んでいない方がいたことが残念でした。事前課題を有効活用して欲しいなと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	情報メディア演習				
担 当 者	田中達也				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.0	4.4	4.6	4.5	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>本演習は、数理・データサイエンス・に関する知識及び技術に関する応用的な学修と、大学生活や就職活動、社会人として必要となるプレゼンテーションに関する技法を学修することが目的でした。</p> <p>授業では、Office ソフトの利活用や Teams を活用したグループワーク、AI の利活用を実施しました。ここで身に付けた技能は、今後の大学生活のみならず、実生活、就労時にも活用することができます。しかし、ここでの内容がすべてではありません。AI を中心とした VUCA の時代においては、数か月という月日で我々の生活そのものに大きな変化が訪れます。だからこそ、これからも時代の最先端の技能を自分自身で学んでいく必要があります。今回の学びをきっかけに、自身の学びの更新、スキルアップを目指すことができるよう、頑張ってください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	学校保健				
担 当 者	中西利恵、光安早織				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.5	4.4	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>この授業は中西・光安の二人で担当しました。15回授業内容のうち各教員の専門分野から、中西が保健教育と保健管理の対物管理・組織活動の分野を7回、光安が保健管理の対人管理（保健室管理）分野を7回担当し、初回の「オリエンテーション・学校保健とは」は中西が担当しました。</p> <p>テキストはあえて購入はせず、テキストの代わりとなる授業資料を各回配布しました。そのため資料枚数は多くなりましたが、ほとんどの学生さんがファイリングし管理してくれていたようです。授業時に、知識の定着を図るため、小問題を出したりしましたが、空欄を埋める等メモをとり、授業資料を完成させ、真面目に授業に取り組んでおられました。</p> <p>授業資料について「文字が小さすぎる」「穴埋めのかっこが小さすぎる」という自由記述が1名ありました。テキストを購入しないで済むよう授業資料を作成するため、枚数が多くなり過ぎないようにA4サイズ1枚に4枚のスライドを挿入し印刷しました。そのため、スライドによっては文字が小さくなる点については初回に事情を説明し、理解を得るようにしました。次年度からはもう少し丁寧に説明するようにします。</p> <p>授業評価は学科平均とほぼ同程度でした。が、授業に関する「学生自身」の取り組みについては、学年平均より0.2ポイント低くなっていました点は昨年度と同様でした。出席状況において、3回以上欠席者が全体の約3分の1になったことと関連すると思われれます。4～5回の欠席者が11名おり残念です。火曜日1限目であったため、連休明けは欠席数が増えました。特に、成人式の翌日の授業日は50%強が欠席でした。成人式翌日については、一生に一度のことですのでやむを得ないと思います。</p> <p>提出物については、多くの学生が丁寧に仕上げしており、中には、是非次年度の受講生への見本に活用したいような完成度の高いものもありました。</p> <p>保健師資格取得、養護教諭一種免許取得をめざす学生さん、取得をめざしてがんばってください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	慢性病看護論				
担 当 者	堀理江、野田部恵				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.0	4.5	4.5	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>とても熱心に看護過程の展開について検討する学生さんもあり、教員も刺激をもらいました。いっぽうで、欠席が多く、定期試験間際になって問い合わせをしてくる学生さんもあり、学生の皆さんの学習進度が開いていっている印象です。皆さんが興味をもてるような授業内容を引き続き検討していきます。関連図の書き方についてはもう少し時間を割いて説明できるよう授業の構成を変更します。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	4		
科 目 名	医療・看護特論Ⅱ				
担 当 者	尾崎雅子、岩切由紀、谷口由佳、横山利枝、島内敦子、立垣祐子、庄司靖枝、 中田康夫、				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.9	4.6	4.5	4.6	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>本科目は4年間で学んだ看護実践に必要な知識の修得状況の確認を目的に、4年生の後期に配置しています。国家試験を目前にして、課題に取り組む皆さんの姿を見ていると、「4年間経ったのだなあ」と感慨深く思うと同時に、何とか国家試験に合格してほしいという願いを抱きながら授業を進めました。</p> <p>授業評価の結果は学科の平均とほぼ同様の結果でしたが、カテゴリーⅠ（学生自身）は3.9と全体から比べると低かったですが、「この科目に意欲的に参加」が4.75と高く、国家試験への意気込みが感じられる結果だったと思いました。看護の7領域（基礎、成人、老年、小児、母性、精神、在宅）と専門基礎の計8分野からオムニバス形式で授業を行いました。各分野の特徴もあり、授業方法はそれぞれ異なりましたが、この時期の授業では皆様自身が自らの学修状況を確認して、何をすればよいのか考えていただくことが重要だと思います。</p> <p>最後になりましたが、授業評価のご協力いただきありがとうございました。授業後の依頼となったこともあって8名と少ない方の回答でしたが、この結果を次年度以降に活かしていきたいと思えます。</p> <p>担当者一同、皆様の今後のご活躍を期待しております。</p> <p>（文責：尾崎）</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	4		
科 目 名	看護学研究				
担 当 者	尾崎雅子、鈴木志津枝、岩越美恵、庄司靖枝、魚崎須美、島内敦子、柴田しおり、岩切由紀、中田康夫、谷口由佳、堀理江、藤原桜、横山利枝、黒野利佐子、立垣裕子、伊東愛、西村充弘、伊東美智子、柳田千代美、野田部恵、板垣紀子、尾崎優子、原希代、中村由果理、江口実希				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.9	4.4	4.5	4.6	4.6	
学生へのメッセージ					

本科目は看護の対象に質の高い看護ケアを提供するために、また看護学の理論や実践を体系的に確立していくために、自らの立てた課題に向けて取り組んでいく研究的態度を身に付けることをねらいとしています。皆様の課題に対する“こたえ”は導き出せたでしょうか。

授業評価の結果は学科の平均とほぼ同様の結果でした。頑張られた成果が反映された結果だと思います。授業形態がゼミ形式で、教員と学生との距離が近く、意見交換が良くできたのではないですか。I 学生自身が 4.9 と非常に高く、大変頑張られたことがうかがえます。反面、教員ごとの指導の違いや進捗状況の差があったという意見がありました。多くの教員が関わりますので指導方法や内容の違いは生じるかもしれませんが、今後も教員間の調整をしっかりとしていきたいと思います。看護学研究は臨床に出ても続けていくこととなります。今回は3年次に学んだ「看護研究方法」を手がかりに自分で進めてみる初めての研究でしたが、この経験を今後活かしてください。

最後になりましたが、授業評価のご協力いただきありがとうございました。国試前の時期であったこともあったのか7名の方からの回答で、とても少なかったですが、貴重なご意見としてこの結果を次年度以降に活かしていきたいと思います。

担当者一同、皆様の今後のご活躍を期待しております。

(文責：尾崎)

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	小児看護学概論				
担 当 者	横山利枝				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.9	4.4	4.2	4.2	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>大学で学ぶ小児看護学の最初の科目でしたが、どうでしたか。これから小児看護学を学んでいくうえで重要となる子ども観、子ども達の健やかな成長発達を支える小児看護の役割について何かひとつでもつかめてくれていたらいいなと思っています。</p> <p>授業では、事前課題を使って理解を深められるようにしていましたが自分で考えることの大切さが伝わっているといいなと思います。</p> <p>教室の規模や資料など学習環境についての要望がありました。より良い学習環境で、資料等の工夫をしながら進めていきたいと思っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	母子支援実習 I				
担 当 者	横山利枝				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.9	4.6	4.4	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>実習では講義・演習で学んだことを受け持ち患児との関りを通して、深めていきます。子どもやその家族とのかかわりに戸惑いながらも、その子どもにどう関わればいいのか、どうすれば少しでも苦痛や不安を軽減した援助ができるか、思い悩んだ過程が大切だと思います。日々の関りを通して、受け入れてもらえた、自分の関りでいい方向に進めたなど達成感が感じられる実習になるようこれからも進めていきたいと思っています。</p> <p>また、学内実習についての要望がありました。病院実習での学びをしっかりと振り返り、次の療育施設実習に行かせられるようにと時間を取っていますが、学内実習での学びが深まるよう考えたいと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	公衆衛生学				
担 当 者	味木 和喜子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.8	4.3	4.4	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価アンケートに回答いただきありがとうございました。公衆衛生学という幅広い分野を、まずは一通り学んでいただきながら、日常生活や専門知識と結びつけて考え実践する習慣を身につけることを目指して 15 回の講義を準備しました。ほとんどの学生さんが、毎回の課題シートに向き合い、様々なコメント・意見を寄せていただいたことに心から感謝します。自由記載でも、「毎回の授業で予習復習ができる仕組みになっている」、「授業後にアンケートを記入することで、質問等に次回の授業で回答していただけたので、より学びにつながり良かった」など、教官の意図を好意的に受け止めていただき良かったです。</p> <p>次年度は、授業により集中してもらえよう工夫します。また 3 年次の保健医療福祉総論で、より深く、公衆衛生学・保健医療福祉を学んでいただけるよう準備していきます。今後の皆様の成長を期待しております。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	教育心理学				
担 当 者	柳原 利佳子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.2	4.4	4.0	4.1	
学生へのメッセージ					
<p>この科目については、他の教職課程科目とは異なり、教育学部の学生との合同開講が可能であったため、養護教諭免許取得を目指すみなさんにとっては、大人数の講義科目でした。肯定的なご意見をいただきありがとうございました。どなたかから私の声について「聞き取りやすくよかった」とコメントを書いていただきました。実は、私の声や話し方については自分でも課題だと感じているところがありますので、そのようなお声をいただきわずかでも進歩しているのかと感じました。ありがとうございます。</p> <p>また、教員採用試験を意識して講義をしているため、心理学の専門用語や研究者名など小テストや定期試験でも出題しました。教員採用試験での教育心理の範囲の出題割合は少ないですが、それだけに基礎的なところはきちんと正解を導いてほしいと思っています。そのためには教員採用試験の過去問を解くなどして、定期的に各回の復習をしておいてくださいね。</p> <p>ご意見ありがとうございました。</p>					